



高麗建国1100周年記念特別展開催 博物館案内

国立中央博物館

〒04383 ソウル特別市龍山区西氷庫路137
+82-2-2077-9000 | <http://museum.go.kr/>

観覧時間

・月・火・木・金曜日 10:00-18:00 水・土曜日 10:00-21:00 日曜日・祝日 10:00-19:00
・休館日 1月1日、旧正月(旧暦1月1日)、秋夕(旧暦8月15日)

国立全州博物館

〒55070 全羅北道全州市完山区スコゲ路249
+82-63-223-5651~2 | <http://jeonju.museum.go.kr/>

観覧時間

・月~金曜日 10:00-18:00 土曜日・日曜日・祝日 10:00-19:00
土曜日夜間開館 10:00-21:00(3月~10月の毎週土曜日)
・休館日 1月1日、旧正月(旧暦1月1日)、秋夕(旧暦8月15日)

国立扶余博物館

〒33156 忠清南道扶余郡扶余邑錦城路5
+82-41-833-8562 | <http://buyeo.museum.go.kr/>

国立公州博物館

〒32535 忠清南道公州市観光団地路34
+82-41-850-6300 | <http://gongju.museum.go.kr/>

国立清州博物館

〒28313 忠清北道清州市上党区明岩路143
+82-43-229-6300 | <http://cheongju.museum.go.kr/>

国立大邱博物館

〒42111 大邱広域市寿城区青湖路321
+82-53-768-6051~2 | <http://daegu.museum.go.kr/>

国立春川博物館

〒24325 江原道春川市友碩路70
+82-33-260-1500 | <http://chuncheon.museum.go.kr/>

国立羅州博物館

〒58301 全羅南道羅州市潘南面古墳路747
+82-61-330-7800 | <http://naju.museum.go.kr/>

観覧時間

火~金曜日 10:00-18:00 土曜日・日曜日・祝日 10:00-21:00
日曜日・祝日 10:00-19:00 土曜日夜間開館 10:00-21:00(4月~10月の毎週土曜日)
※ただし国立羅州博物館は土曜日夜間開館がありません。
・休館日 1月1日、旧正月(旧暦1月1日)、秋夕(旧暦8月15日)、毎週月曜日
※ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日に休館。

国立弥勒寺址遺物展示館

〒54574 全羅北道益山市金馬面弥勒寺址路362
+82-63-830-0900 | <http://iksan.museum.go.kr/>

観覧時間

・火~日曜日 10:00-18:00
・休館日 1月1日、旧正月(旧暦1月1日)、秋夕(旧暦8月15日)、毎週月曜日
※ただし月曜日が祝日の場合は開館し、翌平日に休館。

※ 展示の日程と内容は各機関の事情によって変更する可能性があります。

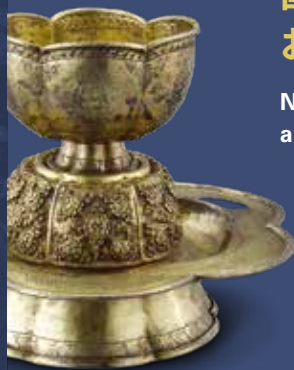


高麗建国 1100周年記念 特別展日程

Schedule of Exhibitions in Celebration of the 1100th Anniversary of Goryeo's Foundation

国立中央博物館 および所属国立博物館

National Museum of Korea and Regional National Museums



2018.
05.
—

2019.
03.



高麗建国1100周年記念 特別展の開催について

国立中央博物館および所属国立博物館は、2018年5月から2019年3月にかけて、高麗建国1100周年記念特別展を開催いたします。全国各地で開催される本特別展においては、高麗の太祖・王建が建立した開泰寺をはじめ、益山・弥勒寺、寧越・蒼嶺寺跡、栄州・金剛寺跡などから出土した遺物を通じて、高麗の多様な仏教文化をながめ、扶安青磁・康津青磁などの高麗青磁がもつ美しさをご鑑賞いただく予定です。

本特別展のハイライトは、12月に国立中央博物館で開催される“大高麗⁹¹⁸⁻²⁰¹⁸ 燦爛たる挑み”です。高麗は、統一新羅と渤海の文化を受け継いで過去の伝統と融合させ、周辺国と活発に交流しながら開放的かつ国際的な文化を形成しました。世界史的にも‘コリア’という名称が知られていたほど、礼成港に多くの外国人が訪問しました。高麗青磁が当時の新技術に対する高麗人の挑戦を示すものであるならば、精巧で繊細な高麗仏画の美しさと螺鈿漆器の趣きは、挑戦の結果、達することができた芸術性の頂点と位置づけられます。本展は、高麗美術に秘められた優秀性と、挑戦にこめられた新たな価値に再び光を当てようとするものです。高麗が果たした融合と包容、そして統合の成果は、韓国人の中に内在する‘もう一つの遺伝子’なのです。本特別展を通じて、これまでの失われた中世の王朝というイメージを塗り替え、現在における高麗の意味を発見することができるでしょう。

The National Museum of Korea and the regional national museums are proud to present a series of special exhibitions from May 2018 to March 2019 to mark the 1100th year since the foundation of the Goryeo Dynasty (918–1392). These exhibitions held in cities throughout Korea will allow visitors to explore diverse facets of Goryeo's Buddhist culture through items excavated at the sites of ancient Buddhist temples, including Gaetaesa Temple founded by King Taejo of Goryeo, Mireuksa Temple in Iksan, Changnyeongs Temple in Yeongwol, and Geumgangs Temple in Yeongju. They can also appreciate the beauty of Goryeo art through refined celadon pieces produced in Buan and Gangjin and other artworks from the period.

The centerpiece of the series is “Goryeo: The Glory of Korea,” scheduled to open in December this year at the National Museum of Korea. As the successor to Unified Silla and Balhae, Goryeo integrated the diverse cultures of its predecessors to develop an open and cosmopolitan society enjoying active exchanges with neighboring countries. The name Korea itself is a derivative of Goryeo, and its Yeseong Port was bustling with foreign visitors. If Goryeo celadon exemplifies its people's spirited exploration of new technologies, the exquisite and refined beauty of Buddhist paintings and mother-of-pearl inlaid craftworks represents the pinnacle reached by Goryeo art through its bold pursuit of refinement. This exhibition is designed to illuminate the excellence of Goryeo art and the spirit of challenge it reflects. Goryeo embraced and integrated diverse cultures of its predecessors, and these remarkable achievements have been infused into the Korean cultural DNA. The special exhibitions on Goryeo art will allow visitors to discover the meaning of Goryeo for today rather than seeing it as a lost dynasty from a bygone era.

2018
05
May

06
June

2018.5.22.-7.22. 国立扶余博物館 企画展示館

開泰寺 – 太平聖代の高麗を開く–

高麗太祖王建が後三国を統一して建立した開泰寺にふたたび光を当てる展示です。開泰寺は、太祖の真影（肖像画）をまつる真殿寺院であり、高麗末期における倭寇の侵入を防いだ扶余・鴻山大捷が起こった契機となった場所でもあります。国内最大の高麗時代の金鼓である〈開泰寺青銅金鼓〉をはじめ開泰寺から発掘された遺物を展示することで王室寺院のすがたを紹介します。



開泰寺青銅金鼓
高麗13世紀 | 径102cm
国立扶余博物館所蔵

2018.6.26.-8.19. 国立羅州博物館 企画展示室

三別抄と東アジア

13世紀後半、東アジアを揺るがしたモンゴル帝国に抗戦した三別抄をテーマとした展示です。三別抄の主な舞台であった江華の金城、珍島の龍蔵城、済州の缸坡頭里城と、三別抄の敗亡以後、高麗・元連合軍の痕跡を残す日本・鷹島海底遺跡など三別抄と関連した地域の出土品、三別抄の誕生と抗戦の過程を物語る遺物、高麗後期の社会・文化をしめす遺物を数多く紹介します。



青銅獅子形光明台竿柱
高麗 | 高16.5cm
木浦大学校博物館所蔵

07
July

2018.7.20.-12.31. 国立中央博物館 こども博物館

こねる、押す、高麗 – 象嵌青磁と金属活字の秘密



韓国人の創意性シリーズの最初の展示として、2018年には高麗の金属活字と青磁に秘められた智慧、優秀性、価値を広めるために、こどもの体験空間をつくります。

青磁象嵌葡萄童子文瓢形水注のなかの童子文
高麗12~13世紀 | 高34.5cm
国立中央博物館所蔵

2018.7.24.-11.11. 国立清州博物館 企画展示室

中原の高麗寺院：人と願い

忠清北道にある高麗時代の主な寺院と関連した遺物と資料を一堂に集め、当時の中原地域に住んでいた人々にとって、仏教がどのような意味を持つものであったのかを探る展示です。高僧の碑文、各種の発願品、法具などを通じて、僧徒と信徒たちの願いとこれらを結びつけた仏教儀礼の意味にスポットをあてます。



崇善寺金銅風鐸
高麗 | 高28.6cm
国立清州博物館所蔵

2018.8.28.-11.25. 国立春川博物館 企画展示室

蒼嶺寺跡五百羅漢 – あなたの心に似た顔–

国立春川博物館は、館を象徴するブランド所蔵品として位置づけるため、江原地域に伝わった寧越蒼嶺寺跡五百羅漢像について新たに探ります。五百羅漢像に宿る仏教哲学的な意味と、羅漢像が現代を生きる私たちに与える意味について考えてみます。



宝珠を持った羅漢
高麗末~朝鮮初14~15世紀
高37.4cm | 国立春川博物館所蔵

08
August

09
September

10
October

2018.9.11.-12.30. 国立弥勒寺址遺物展示館 常設展示室

高麗時代の弥勒寺

1000年間(百済~朝鮮)仏法の明かりを灯し続け、百済最大の伽藍を備えていた弥勒寺の高麗時代の姿はどのようなものだったのでしょうか。この展示では高麗時代における弥勒寺の役割とここに居住していた僧侶の生活を紹介します。弥勒寺跡から出土した高麗青磁と中国陶磁、さまざまな仏具などを中心に、仏心が満ちた場所であり、弥勒信仰を具現した代表的寺院である弥勒寺に焦点をしばらくスポットを当てるものです。



青銅菩薩像の手
高麗10~11世紀
高27.7cm
国立中央博物館所蔵

2018.9.22.-11.25. 国立全州博物館 企画展示室

高麗青磁の頂点に出あう 扶安青磁・康津青磁

全羅道定道1000年と高麗建国1100周年を記念し、高麗時代の物質文化の精髓である青磁にスポットを当てる展示です。最近調査が実施され注目を集めている鎮安道通里の初期青磁と高麗青磁の代表生産地である全北・扶安とした全南・康津の青磁を中心に磁器の生産と流通に関連した遺物などを多様に展示します。



青磁象嵌龍文梅瓶
高麗13世紀 | 高52.5cm
国立中央博物館所蔵

2018.10.23.-2019.2.24. 国立大邱博物館 特別展示室

荣州・金剛寺跡で 出あった宝物

高麗建国1100周年を記念して荣州・金剛寺跡から出土した高麗時代の仏教美術品を紹介する展示です。本展示では井戸跡から出土した光明台(燭台)と香垵(香炉)、金堂跡の付近から出土した銅鏡と鏡像、磬子などの仏教工芸品を通じて高麗時代に繁栄した金剛寺の姿に光をあてます。



光明台
高麗1186年 | 33.2×14.0cm
(財)韓国文物研究院所蔵

2019
12
December

2019
01
January

02
February

03
March

2018.11.6.-2019.1.13. 国立公州博物館 企画展示室

忠清南道の高麗

高麗時代に忠清道の概念が形成した過程と、忠清南道の主要都市を、戦略的要衝地、行政中心地、漕運中心地に分けて探る展示です。また忠清南道の宗教文化と物質文化にスポットを当て、他地域と比較することによってその特徴を探り、高麗時代の忠清南道の価値と継承の意味について新たに光を照らそうとするものです。



湖州銘銅鏡
高麗12世紀 | 径18.8cm
国立公州博物館所蔵

2018.12.4.-2019.3.3. 国立中央博物館 企画展示室

大高麗^{918・2018} 燦爛たる挑み

高麗(918~1392)の建国1100周年を迎え、開放的かつ独創的な高麗文化の優秀性を総合的にながめる特別展を開催します。北東アジアの諸国家との交流のなかで、新たな文化の要素を受容し、韓国文化のアイデンティティを構築していった高麗の洗練された美術を紹介します。



銀製鍍金蓋托
高麗12世紀 | 高12.3cm
国立中央博物館所蔵
宝物第1899号



伝仁宗長陵出土品
高麗12世紀前半 | 国立中央博物館所蔵